

カミオカラボへの思い
～関係者インタビュー①～



東京大学宇宙線研究所 所長
梶田 隆章 教授

—梶田教授にとって「カミオカラボ」はどのような施設ですか？

答：我々は長年神岡の地下で研究をしています。地下というところもあり、みなさん「どういふことをやっているのだろう」と思われながらもなかなか現場をお見せすることが出来ない状況でした。このカミオカラボで、実際どのような研究が行われているかが手に取る様に分かるのではないかと期待しています。

—どのような方に来ていただきたいのですか？

答：いろいろなあります。もちろん神岡町の方にはぜひ来ていただきたいです。スーパーカミオカンデやKAGRAで行っていることを知ってもらいたいです。それから、科学に興味のある方にもいろいろなところから来て頂きたいし、道の駅として利用される方にも立ち寄っていただき、これを機会に科学に興味をもっていただければと思います。

—カミオカラボでひとつ紹介するとすればどのような展示になりますか？

答：大型スクリーンでスーパーカミオカンデの内部などを説明してくれるワンダーシップがやはり、中心になるかと思

ています。

—将来にわたってカミオカラボに期待する役割などがあれば教えてください。

答：我々が神岡に来て35年くらいになります。その間に研究は発展してきました。今後とも発展すると思います。

—最後に飛騨市民へのメッセージをお願いします。

答：はい。我々が飛騨市にお世話になって、研究をこの地でやり始めてから35年以上経ちますが、このカミオカラボを通して、我々と飛騨市民の方々の距離が近くなればと望んでおります。

このカミオカラボという素晴らしい施設を作るということを決断していただいた都竹市長にはお礼を申し上げます。

また、このカミオカラボを作るにあたって、財源の一部に企業版ふるさと納税を利用していただいております。ご賛同いただいて、企業版ふるさと納税していただいた企業の方々にもお礼を申し上げます。



カミオカラボへの思い ～関係者インタビュー②～

東京大学宇宙線研究所 副所長 神岡宇宙素粒子研究施設 施設長 中畑 雅行 教授

—カミオカラボで特に紹介するとすればどのような展示になりますか？

答：展示ホール中央に配置される大きなスクリーン展示ですね。研究者が毎日通っている坑道、実験エリアなどの映像が実写で見られるようになる予定です。なかなかの迫力だと思いますよ。タイミングよく2018年にはスーパーカミオカンデのアップグレードのために12年ぶりにタンクをあげ作業を行いました。その時に撮影した実際の映像も使われています。スーパーカミオカンデの最も重要な目である約一万一千個の光電子増倍管の様子を見ていただくことができますよ。

—カミオカラボでこだわった点などがありましたら教えてください。

答：展示の正確さにこだわりました。カミオカラボにはスーパーカミオカンデの一部を再現した光電子増倍管の展示があります。そこに使われている光電子増倍管自身はもとより、それを固定しているサポート金具などは、ねじ一本一本ナット一つ一つに至るまで、本物と同じものが使われています。残念ながら、スーパーカミオカンデは観測中は蓋が閉じられ、中の様子を見ることが出

来ません。しかし、カミオカラボに来ていただければ、タンクの中にいるような雰囲気を感じていただけたと思います。

—教授にとって、スーパーカミオカンデは？

答：自分の体の一部のような気がしています。ニュートリノを使って宇宙全体をいつも眺めている目としてですね。もちろん、スーパーカミオカンデの方が桁違いに大きいわけですが(笑)。

—将来にわたってカミオカラボに期待する役割などがあれば教えてください。

答：今回の展示スペースには、アウトリーチ活動の一環として、研究者と一般の方々が触れ合えるスペースも設置されます。実際の研究の様子などを伝えていければと考えています。

—最後に飛騨市民へのメッセージをお願いします。

答：我々が、長年にわたって神岡の地で研究を続けてくることができたのも、地元の方々のご理解、ご協力があったことだと思っています。この場をお借りして、あらためて感謝の意を表したいと思います。カミオカラボを通して、我々の研究のことを、もっと知っていただければと思っていますし、知ることの喜びを市民のみなさんと共有したいと思っています。